

第 24 回 新木地区「地域会議」議事録

令和 5 年 10 月 22 日（日）

- 開催日時： 令和 5 年 10 月 22 日(日) 10:00～12:00
- 開催場所： 新木近隣センター 多目的ホール
- 出席者： (紙面の都合により割愛)
- 議題： 安全・安心・住みよいまちづくりに向けて
「新木防災」について、自然災害の情報・知識の共有化

■議事

1. 開会挨拶

<地域会議事務局長>

おはようございます。第 24 回地域会議にご出席いただきありがとうございます。

地域会議は地域コミュニケーションの活性化を目指すもので、平成 28 年に事務局を開いてからまる 8 年活動を行っています。地域の皆様と情報の共有化、意見交換を行い、井戸端会議のように楽しく会話ができるばいいな、との思いで続けてまいりました。

新木地域会議では新木防災を 1 号～4 号を発行しています。今回は防災をテーマとした話し合いとなりますので、自然災害の情報・知識の共有化、特に地震、台風について、皆さんの思うところを自由に話し合い、忌憚のない意見交換をしていただければと思います。

2. 我孫子市より

<市民協働推進課>

みなさんおはようございます。

この地域会議は、地域に根付いた団体が福祉、防災、防犯など意見交換し、地域コミュニケーションの活性化を目的とした事業となります。我孫子市には 5 つの地区があり、他地区でも具体的な活動につながった事例もあります。市としても新木地区をはじめ地域の皆様の活動を支えていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願ひします。

3. グループ討議

【1 班】

<地震に対して思う事>

- 地震に対する防災について、実体験がないので意識が低い。繰り返しの話し合いが大切である。今日は楽しく進めていきたい。
- 東北の震災時、大宮の事務所で一晩泊り家に帰るといふ怖い経験をしたが、まずそれを思い出した。安全第一で備えを準備したい。何が一番良いかと言ったら、普段から備える事だと思う。
- 中学校の理科室にいて、割れたガラスでけが人が出たことがあった。定期的に訓練をしていても、実際に起きると対応が難しいこともある。特に経験が無いと何が危ないかを判断できない。子どもの頃からしっかり意識する事が大事だと考える。
- 東北震災時は、帰宅時に道路事情が大変だった。携帯、ライト、着替えなどを枕元に置くようにしている。災害が発生した時にどのようにするか？を考える様になった。
- 災害があった時に、病院の手伝いが大変であった。災害があった時に、何をしてどんな手伝いが出来るかを考えておきたい。
- 揺れがひどくて立ってられないひどい状況を経験した。揺れが治まってもしばらく事務所で寝泊まりした。我孫子は停電にならずに助かった。食料の備蓄も 1 週間分必要と考える。
- 自分の経験を伝えることも大事だと考える。毎年の防災訓練のなかで安否確認の訓練もしている。安否確認は札を玄関先に出す事で対応している。災害を身近に感じてもらえる方法を模索している。
- 食料の備蓄は自分で準備している。水を確保するにはハザードマップなどの活用がある。緊急連絡先の準備も必要。非難経路を含め避難所訓練が必要ではないか？経験が大事。
- 地震は突然来るものであり、怖いというイメージがある。日頃の自助を作り上げたい。常磐道から三陸道に行くと休憩所が少ない。休むところが無い。コンビニ迄何キロという状況で何も無いところが多い。現地を見る事も自分の事として考えたい。もし自分がそこにいたらと、ニュースを見て自分を当てはめて、何が出来るかを考えることも大事だと思う。自然災害に対してどうしたら良いか？自分や家族を助けることができるかを考える事が必要。近隣との付き合いが希薄になっているので考えていきたい。
- 防災訓練はどのように行るのが良いか？介護施設への対応も検討が必要。近隣の方々との協力が必要。失敗した例を考慮した避難訓練をしたい。食料確保や夜の避難等の課題を訓練に取り込みたい。地震で建物が大丈夫であれば、その場に留まるのも一案と考える。
- 避難経路が崩れていないか？いざ避難するのに経路の状態はどうするのか？介護施設などの避難の方法は、自治会の協力を事前に話し合いながら考えたい。
- 非常食の備蓄が必要。ライフラインが復活するまでは、建物で退避する様にならざる負えない。火災については、避難必須なので近隣の助けが必要である。
- 身近でその様な話をする機会が無いので、地域会議などを利用していきたい。施設の在り方を地域の中で、情報を共有するのが必要ではないか？井戸水は地震の時には役に立たない事がある。（砂が混じるなど）

<風水害（台風）に対して思う事>

- 以前の台風時に、南新木の調整池（通常空堀）が満杯となった。過去 2 回あった。我孫子は、利根川と

手賀川の間にあるので注意が必要である。ハザードマップの活用が重要。

- 埼玉で経験が無かったが、今年我孫子で経験したのをきっかけに対策が必要と考えるようになった。アンダーパスの問題や、大雨による土砂崩れなど、色々対策が必要になる。
- 柏迄行った時、6号は大水が出ているところがあった。ハザードマップの必要性を感じる。色々迂回路を探しながら移動し、大変な経験だった。通勤経路など、災害時にどの様な対策が必要かを検討課題と考える。
- 防災無線が（風や雨で）聞こえない。車では通れないところに車を置いていくので渋滞が発生する。徒歩での避難が必要。

防災無線が聞こえない場合は、携帯やスマホで見るとよい。

グループラインで情報を流すことも必要な事ではないか。

- 斜面が崩れた経験をした。

吾妻台や気象台の横など斜面が崩れていた。

常磐線沿線で我孫子はアンダーパスが水害で渋滞が発生している。

鈴木屋のところとか、水没しているところがあり、アンダーパスは怖い。

青山台の道路は水没していた。

- 吾妻台は土砂崩れが3方で発生しやすい（ハザードマップで指定）。土砂崩れは怖い。非難する場合は、隣近所、親戚に常にコンタクトを取って置くのが必要である。大雨が降ったら、緊急時以外は2～3時間後に川の増水なども注意する必要がある。移動しない方が良い場合もある。高台は土砂崩れなど各種条件が違う事が多いので注意が必要。中学校と小学校の間が危ないのでは？以前10m程度崩れた事がある。非難出来るか、しっかり災害への対応を理解してもらう事が重要となる。

<まとめ>

- 地震と台風についての、各自の経験、実体験がメインとなった。
- 地震対応で、備蓄に対してどう考えるか？
- 非難経路はどの様考えるか、自分でやれること、やれない事をまとめておく必要がある。
- 台風に関しては直近の水害や土砂崩れなど、通行が出来ない事などの実体験がある。
- アンダーパスの実態で、自治会や個人で確認が必要である。

【2班】

- 地域特性から風水害訓練を行う必要があると考えるが、これまで自治会でも実施事例がなく実施方法がわからない。実施要領を把握したうえで、毎年実施した方が良い。風水害は雨天となる可能性が高く、移動は「車」になることが多いと思う。「車椅子」での避難は難しいのでは？
- 新木小において12月2日実施予定の「避難所運営訓練」には是非参加したい。
- 水害も、①堤防からの逸水、②堤防決壊、③集中豪雨、によるもの等がある。②以外は避難するため多少（1～2時間）の時間的な余裕があると思われるが、②の場合はほぼ瞬時に発生するので先ず「自助」を優先して考えるべきである。
- 緊急時に高齢者を保護するための移動援助には、高齢者情報が必要となる。民生委員が保有する情報の把握も有効となるが、市との秘密保持契約を結ぶことにより可能にある。その他有効な情報としては、「見守りネットワーク」、「エンジョイ新木野」、「虹の家」等の情報も有益であると思われるので、それらのネットワークづくり、コミュニケーション構築が重要である
- 自分の所属する自治会において回覧版は手渡しとするべきであると主張している。それにより高齢者の安否確認が可能となる。
- 情報管理契約が前提であるが、民生委員の保有情報を自治会に開示することは可能であるので、特に高齢者情報を有効活用して自治会と行動を共にしてもいいのではないかと。
- 今後防災活動の中心者は現在の若年層（小中高校生）が主力となるべきであるので、避難訓練、防災訓練等は各世代間合同訓練とし、若年層の子供たちがその中心者として行うべきである。高齢者はフォローアップとして支える。
- 日常の訓練を継続することが非常に大切である。それにより、リアル緊急時に無意識に体が動くことも期待できる。
- 本日の討議内容には各種関係機関に要望するべき内容があると思われるので、整理してどのように関係機関に繋げるかが大事である。

【3班】

- 最近是我孫子地域でも短時間に50ミリ超す雨が降り、身近に災害を実感する。我孫子駅近くで車が水没するということがあった。車は廃車になったが人命には影響なし。
- 参加者から避難場所の開設と受け入れ体制の周知方法、新木小学校、近隣センタなど、避難情報の問い合わせがあった。
広報の活用、ネット、忍び込み防災アプリ、NHKの防災アプリ、等があるが、高齢者には扱いが難しいものもある。
一人暮らし高齢者に対する安否確認の仕方、近隣住民の居住内容がわからない。
夜中に避難場所へ高齢者を移動させるのは難しい。
新木小学校、新木近隣センターは高台なので、一人で移動できるか疑問もある。
- この地域で近年一人暮らし高齢者が増えており、民生委員が安否確認の方法で苦慮している。
(電話で安否確認したら、どこから番号入手したか疑われた)
- 地域で格差がある。
ある自治会では見守ネットワークを確立し活動しているが、近所のことはあまり分からないという自治会も多い。
まち協イベントで参加者が顔見知りになる事を目的にして民生委員が活動しているケースがある。顔見知りの拡大化により、避難が円滑になるのでは。
- (利根川沿いの) 市民体育館で、大雨の時に小川が増水し、木野地区住民が恐怖を感じているとの報告あった。橋が水に付きそうな状態であった。事業所が用水路の近くにあり、最近は大雨が頻繁にあるので、利用者の避難の仕方が心配。
- 民生委員の個別訪問で親が救われた。
たまたま一人暮らしの家に委員が訪問中に親が倒れた。民生委員が訪ねていなかったら、発見までに日数がかかり、孤独死になったと思われる。民生委員のたまたまの訪問で救急搬送の手配、無事一命が救われた。民生委員の活動に感謝。
- 一人暮らし世帯が増える中、避難場所の誘導マニュアル、場所等、の確認が必要。
- 一人暮らし高齢者の連絡先の確認が必要(家族等、親戚、など一覧表の作成、保管見える化)。
災害時の避難場所が解らない。普段から確認が必要では。
- 災害時の近隣センターで、自販機による飲物の無償提供などのシステム切り替えができるとういと思う。

<3班纏め>

- 普段から向こう三軒、両隣位のことに関心持ちたいが、昨今は個人情報保護などでなかなか情報共有出来ない?
- まち協のイベントで、顔見知り増えミニケーションを拡大できれば良いと思う。

【4班】

＜各自治会の状況＞

- 私たちの自治会では、1つの班がおよそ30件で編成されているが、末端の構成は10件程度が良いと思う。末端の組織を小さくして共助の単位となるよう、自治会としても考えたいと思う。
- 私たちの自治会では高齢化が進んでいて、14件しかない。このため助け合いが非常に難しい。ただ長いこと住んでいるので顔見知り。近隣住民とは自治会総会と夏の草むしりで年に2回は顔を合わせる。
- ご近所のこと分が分からなくなっており、ピンポンするのも（気軽な訪問も）はばかられる。もう少し話ができるようになればいいなと思っている。
- 新木野自治会は全520戸。20～30戸が最小単位。10戸位に小さくした方が、お互い知り合う単位として良いと思う。
- 上新木はだいたい8-10戸。ただしそれぞれどの程度親密かはわからない。共助の単位としてはちょうどよいと思う。
- 新木団地では、1班30人くらいだが、さらにそれを2つに分けているので最小単位は15人くらい。各班で会館と公園を掃除しているので顔見知り。入れ替わりも多く空き家になったりもするので、確実ではない。まあそれでも大体うまくいっている。
- マンションで20棟あり、問う単位で分かれている。50世帯。回覧板は10世帯が単位。なので10世帯分は大体わかる。やたらイベントが多く、毎月なんやかやで集まる。防災訓練では300人くらい集まる。防災訓練のあと棟単位で酒を飲む。これが一番お互いを知り合うのに一番効果がある。この位の距離感でないと中々踏み込んでいけない。
- 南新木1丁目では、班は24-25件。回覧板は2つに分けている。知っているのは4-5件程度。
- 吾妻台では1班が30件だが、回覧板は14-5件。近所7-8件。子供が小さい頃はバーベキューなどをしていたが、卒業した今は自然消滅しまっている。両隣2-3件と前後向かいの10件くらいが把握できる限界かなと思う。
- 生活の中で感じるのは、10名以上になると動きづらくなるように思う。共助については実働できる人の数も考慮できると良い。洗濯物やゴミの出し方、庭の具合で何となくわかることもある。最近はプライバシーの問題もあるので踏み込むのが難しい。同じゴミ集積所を使っている範囲位が、何となく気遣える範囲かなと思う。
- 吾妻台では、災害時に無事を知らせる看板を出す訓練をやっている。看板がなければ、留守または何かあった場合。看板の回収率が60%以上。何かあれば声かけあってそのお宅を訪ねる。
- ウチのマンションでは無事であることを知らせるマグネットを外に出す。防災の組織があり、要介護／介護者の登録をしていて、マグネットを出していない要介護の家を、介護側の人間が訪問する。要介護の家は、50件のうち15件くらいである。
- 近所だけでなく、趣味の付き合いなど少し遠くでも仲の良い人がいれば共助になるケースもある。
- 知り合いの話で、独居老人を見かけなくなったので警察に知らせた。ドアを壊して入ってもらったら、亡くなっていたということがあった。
- 共助について各自治会と防災訓練を行い、避難要介護者を市でリストするなどしている。
- 四半期に1度防災訓練、毎回班の中の担当者を変えることで、数年で全員が防災について把握するという自治会もある。新木の方は防災に対する関心が高いと思う。共助は非常に大事。高齢化が問題になってい

るが、避難所へ連れていけなくとも、安否確認が取れない方を警察・消防へ通報するだけでも共助になる。

<地域会議が知られていないことについて>

- 新木住宅自治会では、人数が少ないので総会の活動報告が報告の機会となる。また回覧板で報告するくらいであればやろうと思えばできる。
- 吾妻台では総会で活動報告がある。ただし参加したという報告だけで内容の引継ぎがない。地域会議から議事録はもらっているので、引き継いでいきたい。
- 今日の内容を各自治会で内容だけでも報告いただき、広報してもらえたらと思う。
- 地域会議をもう少し権威付けして自治会からの参加も意識づけしていった方が良いと思う。
- 役員が毎年リセットされる自治会では、地域会議に関する引継ぎがないことも多い。新木野では常設委員会を作っている。毎年役員が変わる組織は常設委員会を作るとよいだろう。
- 出席者名簿見ると、女性が7人しかいないので少ないのかなと思う。
- 若い方の出席が増えると良い。若い方は忙しいが、いざというときに力になる。

5. まとめ

<地域会議事務局長>

地震や台風は怖いというのが第一印象だと思うが、その時自分がどう動くかを考えることが大事だと思う。災害ニュースの内容を自分にあてはめて考えてみるなど、改めて認識していただくと良いと思う。

アンケート書いていただいて、今回の活発な意見につなげたいと思いますので、よろしくお願いします。

本日のみなさんの意見を集約して課題を見つけ、今後も地域会議を進めていきたいと思います。次回は10/25に予定しています。

地域コミュニケーションを活性化し皆さんが楽しく参加できる環境づくりを続けていきたいという市の思いがあります。ボランティアも楽しく続けるというのが大事だと思っています。次回も楽しく会話できるよう続けていきたいともいますので、皆さんよろしくお願いします。

本日はご多忙の中お集まりいただきありがとうございました。

※配布資料

- 1) 第23回新木「地域会議」(資料)
- 2) 第22回新木地区「地域会議」議事録(事前配布)